

金沢大学における教員の ICT の教育への活用状況 - アンケート調査報告 -

森祥寛*1・佐藤正英*1・松本豊司*1
Email: mori4416@staff.kanazawa-u.ac.jp

*1: 金沢大学総合メディア基盤センター

◎Key Words ICT 教育推進, アンケート調査

1. はじめに

2000年代半ばからの10年間で、社会・生活の中に「情報技術」が大いに浸透し、それが存在することが当たり前になってきた。2, 30年前にやれたら良いと思っていたことが、ハード、ソフト、インフラの面で次々と実現されていったのである。金沢大学においては、学生・教職員用のポータルサイト「アカンサスポータル⁽¹⁾⁽²⁾」が本格運用されてから7年以上が経っている。その間に、ICTを活用した様々な取組⁽³⁾が実施され、システムやインフラの整備が行われた結果、全国的にも進んだICT環境を整えるにいった。

この結果、教員が「ICT教育を活用した教育を始めた」と考えればいつでも実施できるようになったが、実際に教員がどれだけ実施しているのかが計れていなかった。ポータルのアクセスログ等のデータから、システムがどれだけ使われているかを知り、推測することは可能であるが、それはシステム自体の利用であって、「ICTをどのように教育に利用しているか？」を計てはいない。

そこで、2014年2月に、本学教員に対して、無記名式のアンケートを実施した。本稿ではその概要と結果について紹介する。

2. アンケート概要と回答数

2014年2月3日から2月28日を回答期間として、「ICTの教育利用に関する実態調査」という名称でアンケートを実施した。調査方法は、調査用紙を用いた無記名式アンケートである。調査対象は授業等教育活動に携わっている金沢大学教員で、印刷した調査票を送付した。ただし、回答方法は、調査票に直接記入して送り返すか、アカンサスポータル内のアンケート機能を使用するかを2つ用意し選択できるようにした。印刷した用紙を使用したのは、ICTを活用していない教員も回答可能とするためである。

表1は回答数と回答率である。教員向けに行った任意のアンケート調査であるため、あまり高い回答率を得ることが出来なかったが、所属・職位・年代ともに偏りはなく、その結果は金沢大学教員の意見を反映していると考えても良いと思われる。

調査内容は、「①フェイスとICTに対する好悪」「②アカンサスポータルへのアクセスと利用状況」「③授業におけるLMS利用状況」の3つに大きく分かれる。③では、さらにLMSを「(a)利用している」「(b)利用していないが利用したい」「(c)利用していないし利用したくない」の3

つに分けている。

調査項目は全14問で③では(a)(b)(c)で分岐して回答してもらっている。

表1 回答数と回答率

所属域	送付数	有効	
		回答数	回答率
全教員	1,780	280	15.73%
人間社会研究域	456	62	13.60%
理工研究域	466	79	16.95%
医薬保健研究域	504	101	20.04%
センター・その他	354	38	10.73%

3. 調査結果

3.1 ICTに対する好悪

図1は、パソコンとインターネットに対する好悪について、教員の主観による評価を5段階で回答してもらった結果である。ともに悪い感情を持っている教員はごく少数であることがわかる。

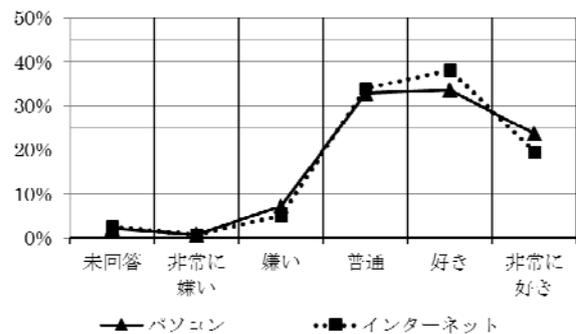


図1 パソコンとインターネットに対する好悪
(N=280)

3.2 アカンサスポータルへのアクセスと利用状況

アカンサスポータルは、金沢大学関係者全般に向けた情報サイトである。基本的なスタンスは大学からの情報を手に入れるための玄関口であり、サービスの詳細情報は、担当部署が運用しているサービスプロバイダにリンクしている。そのため教員のログイン率は96.43%と非常に高い。図2は主な利用方法についてまとめたもので、主に「学生への連絡」や「給与明細の閲覧」等、日々の活動と直接的に関係しているものが多く使用されている。

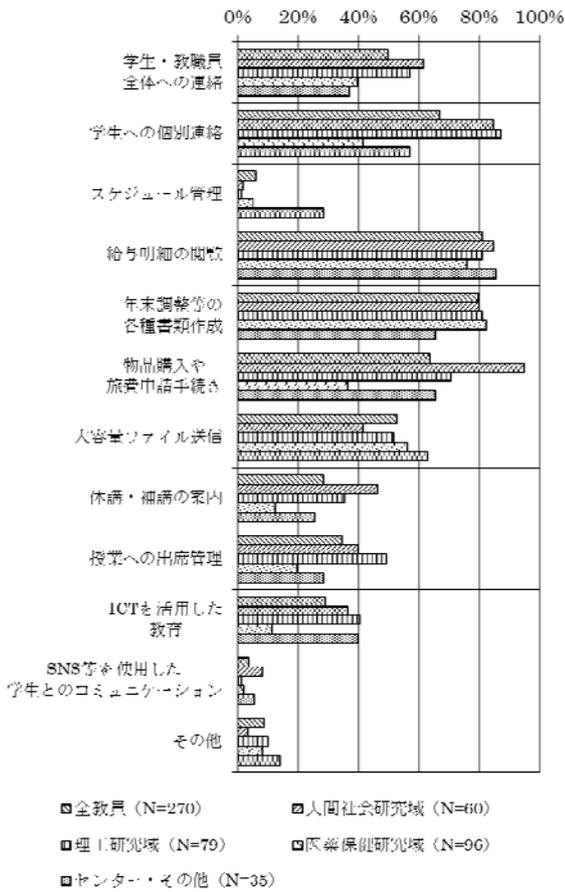


図2 アカンサスポータルの主な利用方法

3.3 授業におけるLMS利用状況

図3はより具体的に、LMSを授業で利用しているかを聞いた結果である。金沢大学ではアカンサスポータルの一機能として、LMS(使用システムはWebClassである。)を組みこんでおり、授業や学生の履修登録、成績管理などを行う教務システムと連携し、利用できるようにしている。これによって教員は、利用したいときにLMSを利用できる環境が整えられている。その上で34.18%の教員が

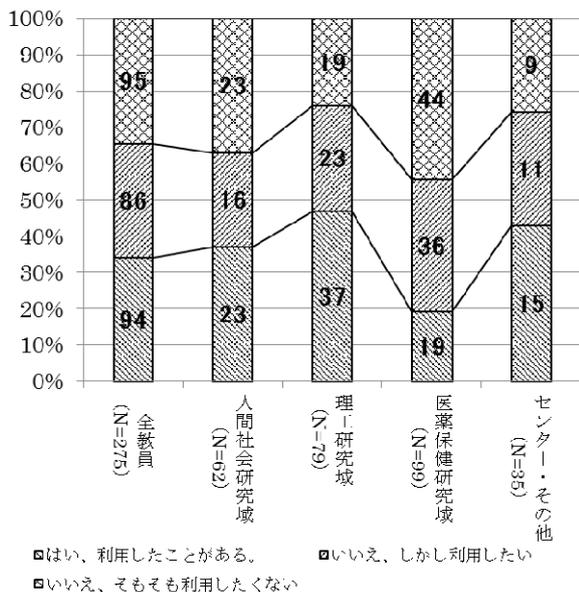


図3 LMSを授業で利用しているか

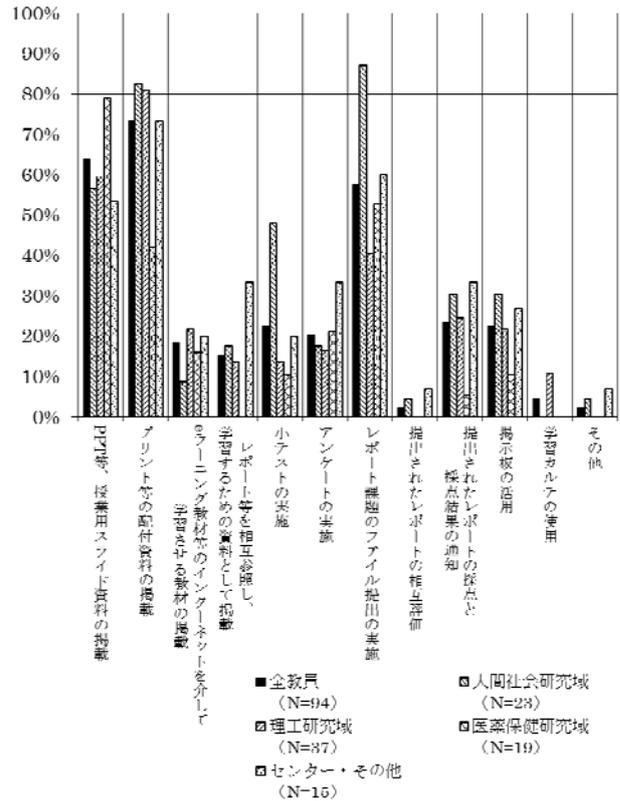


図4 LMSを利用している教員の主な利用方法

LMSを利用していると回答している。利用していない教員の内半数が利用したいと思っており、教員の大半はLMS利用に対して否定的な見解は持っていないようだ。

図4は、LMSを利用している教員の主な利用方法で、授業資料の配付とレポート提出に使用していることがわかる。またLMS利用方法の工夫についても聞くと、教員は「PPTファイル等、授業用スライド資料の作り方や掲載方法」「プリント等の配付資料の作り方や掲載方法」「課題のバッチ設定等、提出のさせ方」等が大きな比重を占めており、反転授業やアクティブラーニング等を意識した授業そのもの工夫にまでは至っていないようだ。

図5はLMSを利用した結果、教員の主観において「授業の質」「効率化」「学習効果」「学生間/学生教員間コミュニケーション促進」に改善がみられたかを聞いた結果である。ここから「効率化」については全体的に改善が図られていると回答している。それ以外については、大きな向上は見られないことから、図4に見られるような方法で、ICTを教育に利用した場合、授業の質や学習効果については大きく改善するような効果は見られないもの、効率化については明らかな改善を感じているということになる。また全ての項目について向上の傾向があることもわかる。

図6、図7は利用したいと思っている教員に、利用の障害と解決方法を聞いた結果である。LMSの利用を望む場合、その障害として1番にあげられるのが「時間の不足」である点は注視する必要がある。他の項目の倍の値を得ていることから、教員の時間のなさが見て取れる。そして解決として望んでいるのが「LMSの使い方を知りたい」ということであった。金沢大学では、ICT教育推進室

(2014年4月に総合メディア基盤センターに所属が移り、FD・ICT教育推進室から改組された⁽⁴⁾)が中心となり、各学域・学類主催のFD研修会などに呼ばれアカンサスポータルやLMSの利用方法を講習してきたが、より積極的な対応が必要ということであろう。

図8は利用したいと思わない教員に、その理由を聞いた結果である。ここでも時間や労力が大きな理由となっており、時間をもつ障害の壁は大きそうである。一方で、対面型の授業こそが教育であるというICTを教育に活用する事への忌避的な意見は、利用したいと思わない教員の中でも20.62%と少数になっており、ここ十年で大きく状況が変わっているように見える。

4. まとめ

今回の調査結果は、2000年代半ば辺りからICTが社会に浸透していき、それにあわせて(或いはより積極的に)、金沢大学内の教育や業務にICT利用を浸透させてきた成果を見て取ることができた。日本の社会の中では、望む、望まないにかかわらず、ICTの利用は必須で有り、それは研究、教育の現場も例外ではない。特に、インターネットを利用した様々なサービスは、距離や国境の垣根を越えて世界とのつながりをもたらしている。今回の調査では、そのような中で、金沢大学の教員は、ICTを忌避するのではなく、適宜、上手く利用していることが読み取れた。

教育活動については、現在はまだ全教員が、ICTを利用するような状況ではない。しかしICTを様々な場面で利用すること自体への忌避感が薄れているのは確かで、これは金沢大学内では総合メディア基盤センターが中心となって、空気のようにICTが当たり前のようにキャンパスにある状態を作ってきたからでは無いと思われる。これは、教育のように教員個人々の考え方が方法論に影響してくるような部分でのICT活用推進は抑え(FD研修会等で利用促進の案内や利用方法の研修を随時実施しながら)、日々の業務や連絡手段にICTを活用することを進めることで実現されたのではないだろうか。

ICTの教育への利用方法については、その方法論が

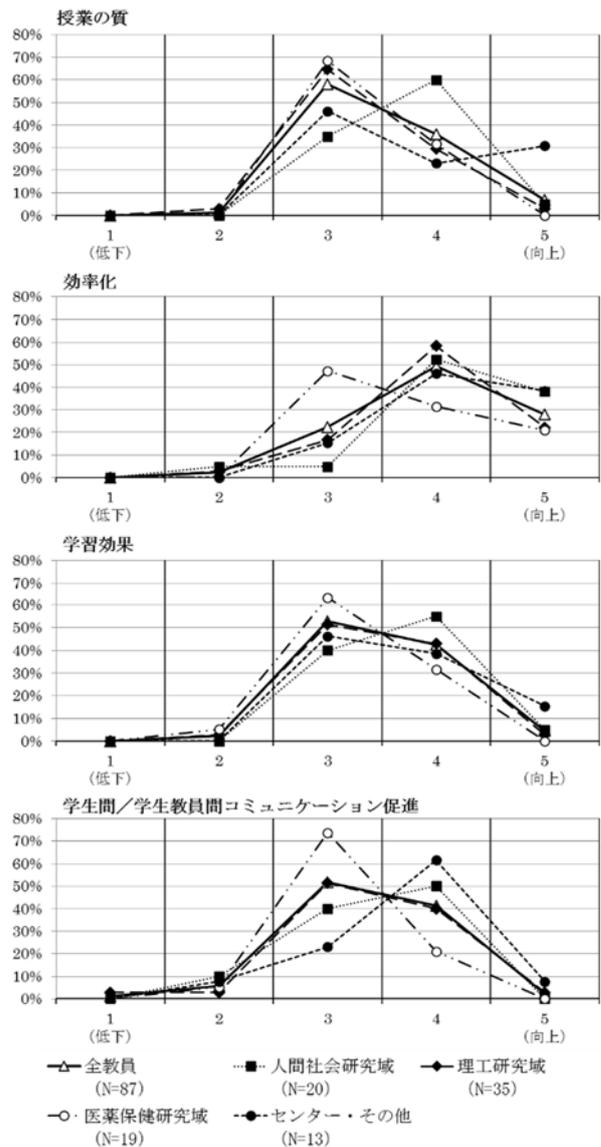


図5 LMSを利用した結果の改善状況

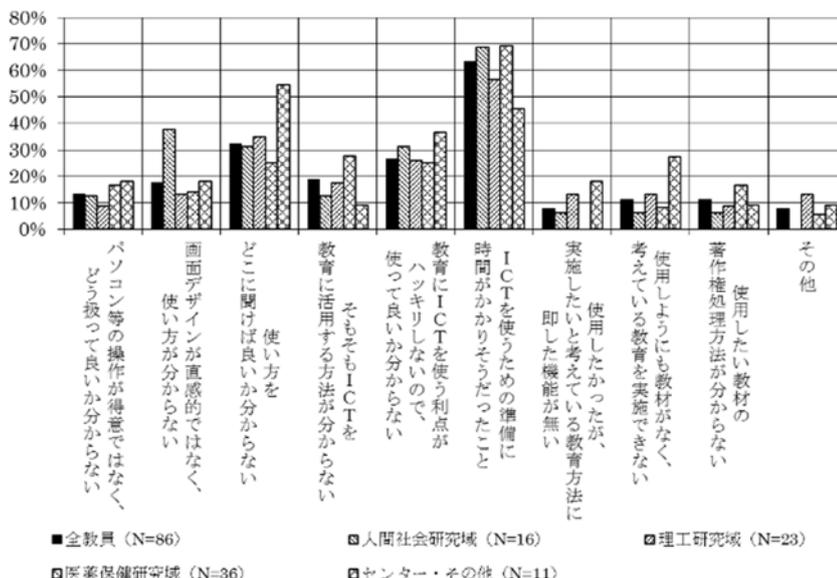


図6 LMS利用時に障害となる事項

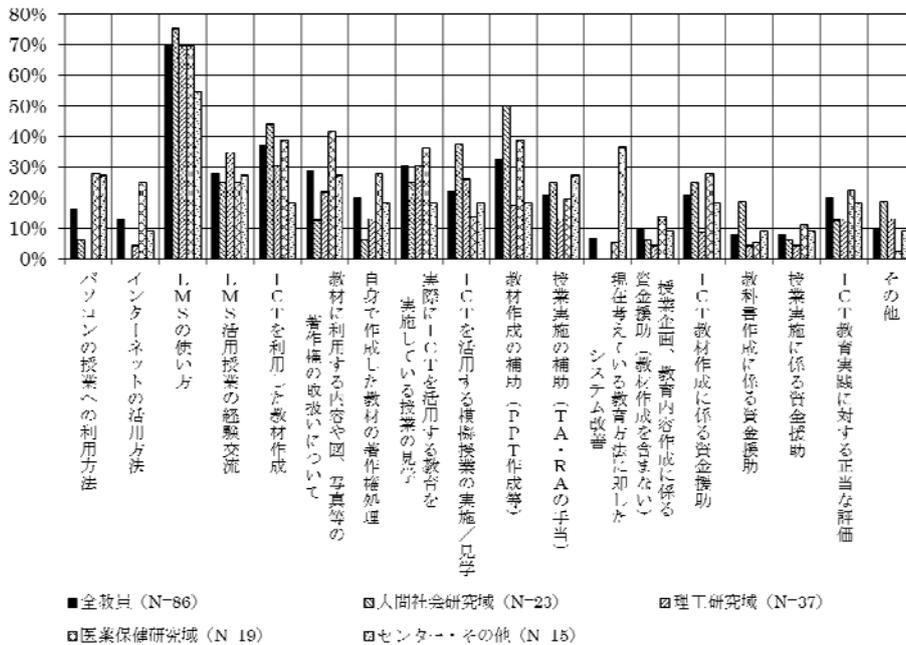


図7 どのような解決方法/サポートがあれば、LMS を利用できるか

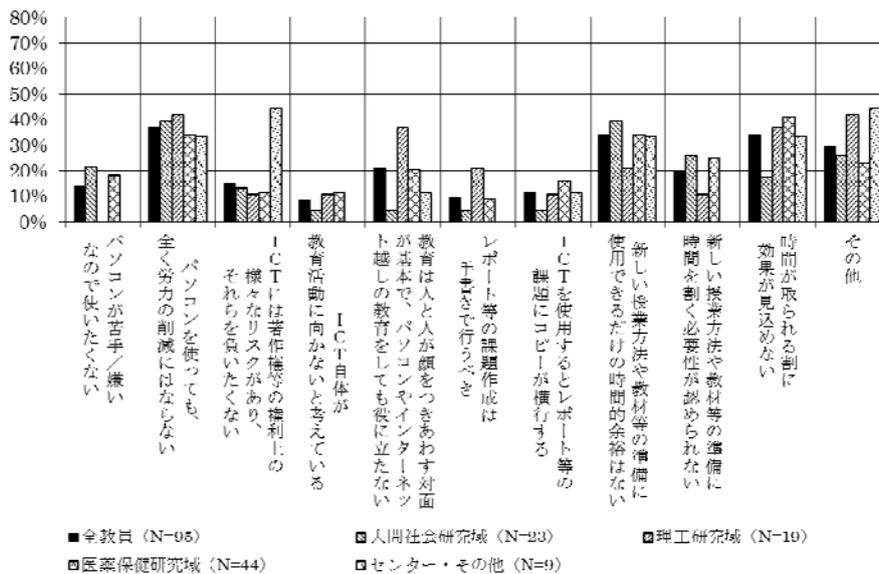


図8 LMS を利用したくない理由

日々研究されているが、それらが実際の現場に浸透する環境を作ることは別の問題である。本報告がそのような環境を作るための一助になれば光栄である。

参考文献

- 東 昭孝, 笠原禎也, 高田良宏, 二木恵, 松平拓也, 森祥寛: “金沢大学全ポータルシステム (アカンサスポータル) の開発思想と運用状況”, 大学情報システム環境研究, VOL.16 (2013)
- 堀井 祐介, 森 祥寛: “新アカンサスポータル紹介”, COM.CLUB, 広報 31(1), 6-7, 2008-03
- 鈴木恒雄, 井町智彦, 笠原禎也, 佐藤正英, 車古正樹, 高田良宏, 松本豊司, 森 祥寛, 堀井祐介: “教材開発とイーラーニングの学内普及へ向けての取り組み”, メディア教育研究, Vol.2, No.2, pp.11-17 (2006)
- ICT 教育推進室: <http://fdict.el.kanazawa-u.ac.jp/>